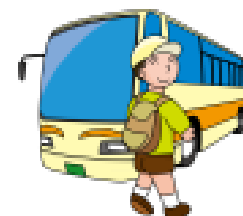


実践プラン例（3）

リラクゼーション活動と障がい者の地域参加



ここが
ねらい

障がいのある人と協働して新しい
活動を始めること



〈エピソード〉

今年度子ども会を担当することになった A さん。どんな企画をすれば地域の子もたちがよろこんで参加してくれるのか毎日頭を悩ませています。今朝も見守り隊の活動をしながら他のお母さんたちに相談していたのですが、そんな時、前を支援学校の通学バスが通り過ぎて行きました。

A さん「そういえばうちの子と同級生だった子、支援学校に行ってからあまり見かけないな…」

B さん「遠くの支援学校に通ってるからね。お母さんともおしゃべりする機会減ったような気がする」

C さん「障がいのある子ってよく分からないから、見かけても声かけづらいよね」

そんな会話をしながら A さんは、障がいのある子も参加できるような企画ができないかと考え、かつて子育てサークルでお世話になった公民館の職員さんに相談してみることにしました。

○概要

子どもの「水遊び会」をきっかけとして、地域住民に障がいや障がい児（者）についての理解を促し、「足湯会」「スヌーズレン会※」等のリラクゼーション活動の開催を通して障がい児（者）の地域参加を図る。

〔参加者：地域住民
実施場所：学校、公民館等社会教育施設〕

※本実践プランでは光、音、におい、振動、温度、触覚など、さまざまな感覚への働きかけを通じたリラクゼーション活動をおこなうことを、スヌーズレンとしている。

4つのステージ

気づきを促す

学ぶ機会をつくる

情報提供する

できること気になることから
始める意識の醸成

取組内容

参加者の
気持ちの
変化

◆水遊び会をきっかけにして…

自治会（子ども会）が地域に呼びかけ子どもたちを対象に学校を借りて水遊び会を実施する。

〈ここがポイント〉

まずは、障がい児も地域の子も一緒に楽しめる企画をしましょう。

○気づく

「地域には障がいのある子がたくさんいるんだなあ」
「障がいのある子どもへの関わり方って難しいなあ」

◆障がいのある人と一緒に楽しめること考えてみませんか

公民館において、障がいのある人も気軽に楽しめる足湯やスヌーズレンなどのリラクゼーション活動を紹介する講座を開催。障がいの特性や配慮すべきことなどを学ぶとともに、そこで活用できる「地域の素材を使った入浴剤作り」や「アロマセラピー」も同時に体験する。

○学ぶ

「においや光、触感など、五感を使って味わう活動なら、障がいのある人たちにも気軽に楽しんでもらえるかもしれない」
「公民館の講座にも使えそうなものがいっぱいありそう」

◆障がいのある人と一緒にできることを知ろう

地域の障がい児（者）施設や支援学校（学級）が取り組んでいる作業（学習）について公民館等で情報提供し、障がいのある人と一緒にできることがあることについての理解を深める。

○知る

「障がいのある人もできることいっぱいあるんだ…」
「だったら一緒にやった方がいいから関係者にいろいろ聞いてみよう」

◆障がいのある人も一緒にやってみましょう！

公民館が講座参加者と地域の障がいのある人をまきこんで、『手作り入浴剤の足湯会』『手作り装置によるスヌーズレン会』などを開催。

〈ここがポイント〉

障がいのある人からやりたいことを聞いて一緒に企画を立てて実施する。

○始める

「実際に話して一緒に活動してみると、楽しいな」
「やりたいことっていっぱいあるんだなあ。今日出来なかったことをできる機会があったら、また一緒にやりたいなあ」

つぎへの工夫！ 水遊び会参加の大人に対してチラシやPR 団扇の配布を行い、講座へ誘導

つぎへの工夫！ 講座には、NPO 団体や障がい児（者）のいる家庭など、障がいのある人と関わりのある人にも参加してもらって、次の情報提供に活かしましょう。

つぎへの工夫！ 障がい児（者）施設や支援学校（学級）へ足湯会等の開催について事前に情報を提供しておく。

関わる団体と
役割分担の
イメージ

